

| | |
|---|---|
| 応募者 | 株式会社アサヒメッキ |
| 1. 活動名 | 限りある資源を大切にし、水素社会の実現へ貢献する |
| 2. 表彰の対象となる活動の目的 | 環境負荷を減らし、水資源を大切に使用する事に配慮しながら表面処理することで、企業のイメージアップ、技術力のアピールを図る。 リサイクル可能なステンレス素材を生かし、水素社会の実現への貢献と限りある資源を大切にすること開発目標とし、オンリーワンの発色処理技術でデザイン性、耐久性を向上させ、新しいサービスとして鳥取から世界へ普及させ、サステナビリティに貢献する。 |
| 3. 表彰の対象となる活動内容 | <p>① 実施期間 令和4年5月～令和6年3月</p> <p>② 対象者・参加人数 10名</p> <p>③ 実施場所 株式会社アサヒメッキ鳥取工場内</p> <p>④ 活動概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産過程で発生する汚染水を再生水システムの稼働により、下水排水の減量化を実施し、メッキ処理後の雑排水を再利用可能にする。 ・サステナブル材料に貢献するステンレスを生かした表面技術、ステンレス鋼発色処理(オロル処理)の事業拡大を目指す。ORORU®処理は、表面に無機質な酸化膜しか存在しないため、脱膜や分離、ろ過が不要。処分時の工程減、コストを大幅に削減することができる。 ・水素サプライチェーンで水素供給、貯蔵設備には多くのステンレス材料が使用され、特に高圧ガス関連に使用される材料はステンレスの中で最も高級な材料 SUS316L が使用されており、安価な SUS 材料への転換が望まれます。その実現に向けて当社では安価な SUS 材料への皮膜処理でその実現に向けた一助になる開発を進めています。 |
| 4. 表彰の対象となる活動の自己評価 | |
| ①モデル性 | (6に記載の活動において、特に他の団体等の模範となるような工夫などについて記載してください。) 同業他社が持ちえない再生水システムの実現稼働により、再生利用が 20～25%になり、高度な技術で再生水を利用する技術のため、企業イメージのアップ、技術力のアピールにつながる。 ステンレス発色技術は表面処理業界では同業他社が持ちえない技術であり、それを量産化実現し、事業化したという大きな強みがある。各団体、企業がSDGsの取り組みを重要視する中でサステナビリティに貢献する材料としてステンレスが注目されている。今後当社技術を組み合わせ販路拡大の機会が訪れる可能性が大きい。 |
| ②ネットワーク | (6に記載の活動の効果を高めるために活用した、又は新たに構築したネットワーク(個人・団体とのつながり)について記載してください。) 産総研水素関連コーディネーター及び鳥取県産業技術センターの協力の下、取得した特許技術をベースに ASME (アメリカ機械学会) での新技術学会発表を実施する。国内外の研究者や企業へ自社の技術をアピールする。 岩谷産業との連携で水素関連設備の現場トライテストを実施し、SUS 材料への皮膜処理で実現化に向けた動きを加速させる。 |
| ③包摂性 | (6に記載の活動において、「誰一人取り残さない」の理念に則った取組であることや、多様性という視点が活動に盛り込まれていることなどについて記載してください。) ステンレス発色技術(オロル処理)を活かした技術革新と基盤事業拡大により、各分野への市場投入を達成させ、雇用の拡大、障がい者雇用を促進する。 |
| ④統合性 | (6に記載の活動において、経済・社会・環境の分野における関連課題との相互関連性・相乗効果や、統合的解決の視点について記載してください。) ステンレスの発色技術はサステナブル材料のステンレスに色調豊かな付加価値を付ける事ができるため、あらゆる分野でさらに使いやすいような表面技術として環境配慮型商品・サービスを提供できるところが大きな訴求ポイントになる。さらにこれらを行う表面処理工程で水資源を大切に使用する事に配慮しながら商品を製作するところも大きなアピールポイントになると考える。 |
| ⑤継続性 | (6に記載の活動において、活動を継続していくために努力している点(例:財源の確保など)、及び今後の計画について記載してください。) R6 まで水素バリア、抗菌・抗ウイルス表面技術用途開発を進め、販路開拓により、各分野への市場投入を達成させる。またこれらの関連特許の取得を最低 2 件達成させる。 |
| <p>その他、6に記載の活動又は運営主体の特徴、取組のPR等を記載してください。</p> <p>オンリーワンの発色技術を新しいサービス「ORORU」(国内特許及び国際特許取得)として世界に普及させ、持続可能なイノベーションの促進を図る。</p> <p>次世代エネルギー水素に使用されるステンレス配管パイプ等への水素バリア膜の事業開発に取り組み、水素社会の実現へ貢献する。</p> | |